

教育長様

研究コース	
A グループ研究A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
511001	
選定番号	152

代表者 校園名： 大阪市立瓜破東小学校  
 校園長名： 新井 寿栄  
 電 話： 6708-0108  
 事務職員名： 亀田 まゆみ/淡路 大生  
 申請者 校園名： 大阪市立瓜破東小学校  
 職名・名前： 校長 新井 寿栄  
 電 話： 678-0108

## 令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和5年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		子どもも大人もチームうりひが ～かがやけ！みんなが主人公～		
3	研究目的		<p>【本市がめざす基本理念：すべての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立すること。グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となること。】</p> <p>1. 特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理としているため、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において身に着けるべき資質・能力は何か、どのような学習過程を経ることにより、資質・能力の向上につなげるのかということを意識した指導方法の研究を進める。</p> <p>2. 特別活動は各教科等の学びの基盤となるため、教育課程全体における特別活動の役割や機能を明らかにしていく。</p> <p>3. 特別活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>		
4	取り組んだ研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5pt イント)</p> <p>4月【研究企画会】研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討した。    【研究推進委員会①】・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化を図り、年間計画を立案した。・研究のテーマに沿った児童アンケート、教員アンケートを作成した。    【研究全体会・全体研修会①】年間計画、研究の進め方の共通理解を図った。    学級活動部所属の教頭が講師となり、学級目標、係活動の決め方について共通理解を図った。    ※学級目標を達成するために、係活動があるということを再認識した機会となった。    5月【研究推進委員会②】児童アンケート・教員アンケートの実施・分析を行った。    【授業研究会①】「児童会活動 うりひがまつり」（指導案検討会）    6月14日【授業研究会②】「児童会活動 うりひがまつり」（研究討議会）    7月【全体研修会③】1学期の特別活動における児童の変容を分析を行った。    8月6, 7日【「全国小学校学校行事研究協議会 東京大会」参加】    8, 9日【「全国特別活動研究協議大会 東京大会」参加】    【全体研修会④】「世界に誇る日本の特別活動について」    講師 元大阪市小学校教育研究会学校行事部部長 水津 嘉應    ※日々の学校生活において当たり前と思っていたこと（当番活動、係活動等）が世界から注目されていることを知り、日々の実践を丁寧に取り組む必要があることを学ぶ貴重な機会となった。    9月【全体研修会⑤】「全国小学校学校行事研究協議会 東京大会」    全国特別活動研究協議大会 東京大会 伝達研修会    【授業研究会③】「学校行事 全校遠足」（指導案検討会）    10月4日【授業研究会④】「学校行事 全校遠足」（研究協議会）    【研究推進委員会③】児童アンケート・教員アンケートの実施・分析を行った。    11月1日【「近畿特別活動研究協議会 兵庫県大会」参加】    11月20日【授業研究会⑤】「クラブ活動」（指導案検討会）    【全体研修会⑥】「近畿特別活動研究協議会 兵庫県大会」伝達研修会    12月【全体研修会⑦】2学期の特別活動における児童の変容を分析を行った。    1月【研究推進委員会④】児童アンケートの実施・分析を行った。    【授業研究会⑥】「児童会活動 卒業お祝い集会」（指導案検討会）    2月12日【授業研究会⑦】「クラブ活動見学会」（研究討議会）    【研究推進委員会⑤】・大阪市小学校学力経年調査の結果分析を行った。    ・教員アンケートの実施・分析を行った。・がんばる先生支援報告書作成・提出    3月4日【授業研究会⑧】「児童会活動 卒業お祝い集会」（研究討議会）    【研究推進委員会⑥】研究のまとめ作成    【研究全体会・全体研修会⑧】次年度へ向けて、本年度の成果と課題の共通理解を図る。</p>		

5	研究発表等 の日程・ 場所・ 参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 7 年 2 月 17 日	参加者数	約 55 名	
		場所	大阪市立瓜破東小学校 多目的室・オンライン			
		備考				

6	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</b>および<b>教員の資質や指導力の向上</b>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>様々な集団活動や体験活動の場を工夫することにより、児童がよりよい人間関係を構築し、豊かな人間性や社会性を育むことができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>学校行事、児童会活動の事前・事後において、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり返りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり返りカード」と検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>学校全体で、他教科・領域とのつながりを意識した特別活動の取り組みができた。その中で、事前・事後の活動において、「がんばりカード」や「キャリアパスポート」を積極的に活用を図ることができた。児童アンケートにおいては、学校行事・児童会活動が楽しみだと肯定的回答をする児童がの割合は80%を超えており、昨年度までより1ポイント以上肯定的回答が増えた。自由記述欄には、特に高学年において「友だちや下学年のために自分ができることは何かを考え、それを実践することが嬉しい。」といった文言が多くみられるようになったことは成果と考える。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>児童の実態や発達段階に応じた資料（議題、話合いの活動の進め方、活動内容等）を共有し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>『検証方法』</p> <p>児童の「活動のふり返り」で話合い活動（話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、ひろめたりすることができます）について肯定的な回答を70%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>児童の「活動のふり返り」で話合い活動（話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、ひろめたりすることができます）について肯定的な回答は、1学期・2学期・3学期ともに80%を超えた。自由記述欄には、本支援事業で購入した「ホワイトボードを活用しての話合い活動が、楽しい。」「発表することは恥ずかしいけれど、ホワイトボードに書いたらみんなが読んでくれるので頑張って書こうと思った。」「司会に挑戦してみたい。」など、話合い活動に対して意欲的な意見が多くみられた。</p> <p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>集団活動や体験活動において「がんばりカード」や「ふり返りカード」「キャリアパスポート」を活用して、個のめあて・集団のめあてをもって活動し、自己評価や相互評価を行うことにより、主体的に学校生活に生かす態度を育むことができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>学校行事の取り組みにおいて、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり返りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり返りカード」を検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>「がんばりカード」や「ふり返りカード」の作成において、高学年児童の意見（○○の行事は、△△にしたい。など）が採用される場面も増えたことで、学校行事に対する児童の参画意識がより高まった。そのため、各行事においての達成度を知るアンケートのすべてにおいて、昨年度より1ポイント以上の肯定的回答が得られた。</p>
---	--

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上          話合い活動における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子どもたちが課題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>『検証方法』          児童の自己評価、相互評価で肯定的に回答する割合を70%以上にする。（進んで意見を発表できたか、友達の意見を聞いてかんがえることができたか等）</p> <p>〔検証結果と考察〕          児童の自己評価、相互評価（進んで意見を発表できたか、友達の意見を聞いて考えることができたか等）で、1学期、2学期、3学期のいずれも70%以上が肯定的回答であった。</p>
		<p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する          毎月「うりひが研究の日」を設定した。そこでは、4チームが今まで教師主導で行っていた取り組みに対して、児童が活躍できる場面を増やすためにはどうすればよいのかと各種活動を一から見直した。また、限られた時間に有効活用するためには、どのような支援・指導が必要なのかを話し合い、それを全体で共有してきた。活動後には、必ず成果と課題を話し合い必ず次に繋げようと努めてきた。一方で、児童が主体的に活動できるようにするためにには、多大な時間を要する。また教師の力量が問われる。この点については、まだまだ研究を深めていく必要性を感じている。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p><b>『代表校園長の総評』</b></p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する          本研究に取り組んだことで、教職員・児童の学校運営参画意識が非常に高まったことを実感している。市内外の実践を学ぶ機会を得、教師の視野が広がったことで、様々な教育活動の改革が行われたことは校長として大変喜ばしく思っている。また、全教職員によるカリキュラムマネジメントの推進が行われてきたことも、本研究に取り組んだ成果の一つと考える。しかしながら研究はスタートしたばかりで、今回の成果の継続とともに課題をさらに分析し、よりよいものにできるよう、次年度も本研究の継続を強く希望する。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>